857
120
反切注意 挟入
国立国会図書館　タイトル『源氏物語』 請求記号 857-120
ガラス使用

ことの音いかままさり侍らんとせひたまへらるゝ。
よるれけるひまさそくれ侍りてなん。心あはたゝ
しきいでへまえうけたまはらぬこそ。
それといへばおくれ思る人にそ侍なれ。もくしこそ
けりふ人のきくだりやいとて。めしよするもあい
なりいかゞこそ給ふとむさつぶる。ほのうまかき
なりしのふおかしう字也。なすまどりふきて
なりねど。ものゝねがらのすぢことなる物なれば字
まくもおぼされず。いとゝいたうあれわたりて。さび
しき所に。さばかりの人のふるめしう。ところをく
りしづきすへたりけん。いかまおもほし

ウツホノトシカケ女 仲忠大将 十又六ニテノ父母ニヲクレテアバレタルホニスミシヲ
大臣見テ
のこすことなりたん。かやうの所にこそ。昔物語
まもおくれなることゞもなりなれなど。せひつゞ
そて。もれやいひよらましとおぼをど。うちけ
けまやおぼさんとこゝろもげしくそ。やすら
ひたまふ

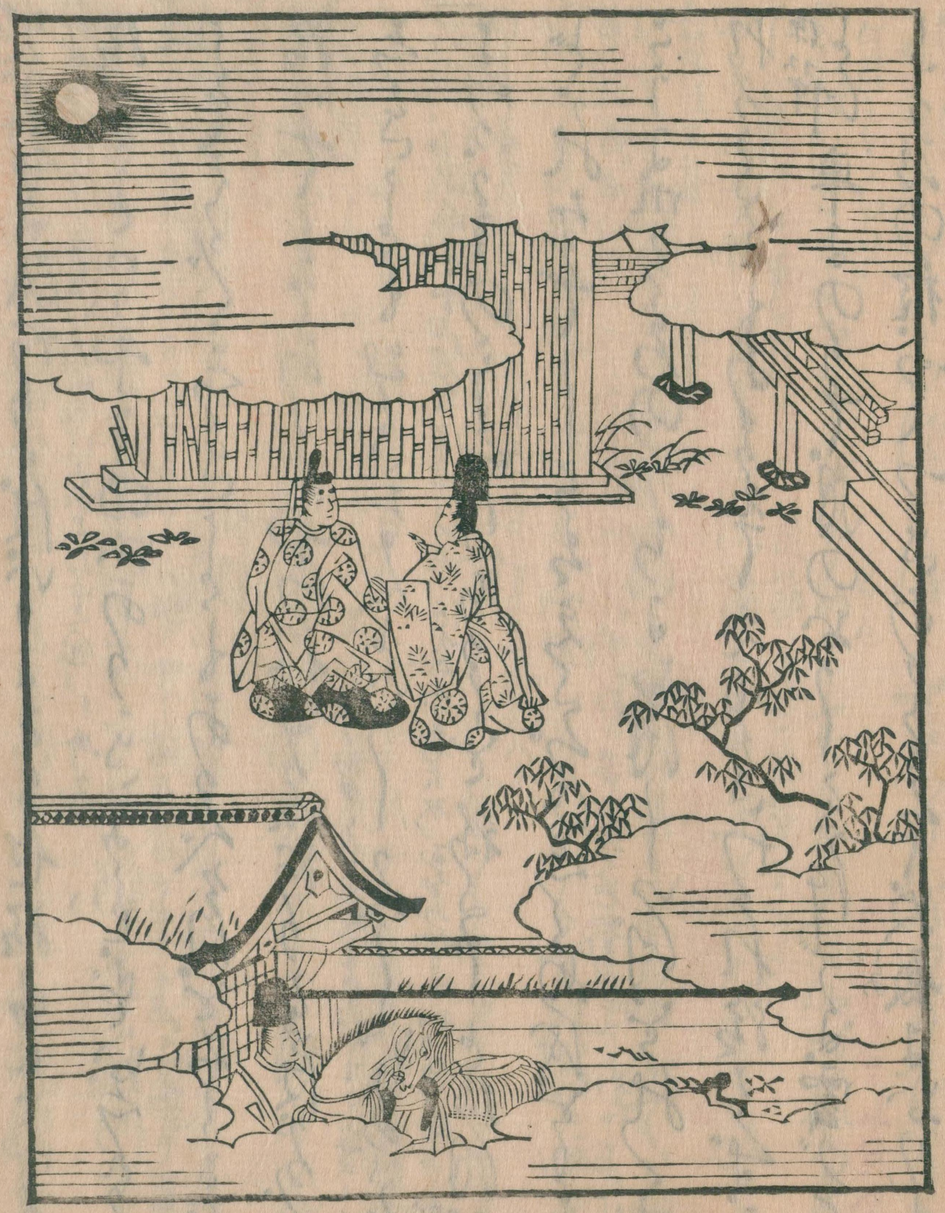
命婦有才者而、命婦心ニ思ルヤウ、源ニ聞セマイラセテヨリヤセン、何ナリトモ、ワカレガタレバ源ニツブサニハ聞ワケサシ奉ラジトテ如此ハ

命婦かどあるものにて、いたうみゝならさせ奉らじ
とおもひければ、くもりがちに侍るめり。まらうとのこんと
侍りつる、いとひがほにもこそ。今心のどかにを。御かうし
まいりなんとて、いたうもそゝのかさでかへりたれば
なか〳〵なる程にてもやみぬるかな。物きゝわく程
にもあらで、ねたうとの給ふけしき、おかしと覚したり。
おなじくは、けぢかきほどのたちぎゝせ
させよとの給へど、心にくゝてと(おもひ)いで、やいと
すゞろなる有様なるを、ひとつもて、心ぐるしげなる
これしもまめやかにうしろめたうさ(は)いかにと
へだつるさまもあることとて、俄に我も人もうちとけて

心モトナキ心

かたらふへき人のきはゝきはとこそあれなとあはれ
におほさるゝ人の御ほとなれはなほさやうのけしきを
ほのめかせとかたらひ給ふ。またちきり給へるかたやあ
らん、いとしのひてかへり給ふ。うへのまめにおはし
ますともてなやみきこえさせ給ふこそ、をかしう
おもふ給へらるゝおり〳〵侍れ。かやうの御
やつれすかたを、いかてかは御らんしつけんときこゆれは、
たちかへりうちわらひて、ことひとのいはんやうにとかな
あらはされそ。これをあたあたしきふるまひと
いはゝ、女のありさまくるしからんとのたまへは、
あまりいろめいたりとおほして、をり〳〵かうのたまふを

はつかしとおもひて物もいはす。しんてんのかたに
人のけはひきくやうもやとおほして、やをらたち
のき給ふ。すいかいのたゝすこしおれのこりたるかく
れのかたにたちより給ふに、もとよりたてる男あ
りけり。たれならん、心かけたるすきものありけりとおほ
して、かけにつきてたちかくれ給へは、頭中将なり
けり。此夕つかた、うちよりもろともにまかてゝ、
やかて大殿にもよらす、二条院にもあらて、ひき別
けるを、いつちならんと、たゝならて、われも行かた
あれと、しりにつきてうかゝひけり。あやしき馬に
すかたのないかしろにてきけれは、えしり



国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

まてまたるゝ月の心もとなきにほしのひかりはかり
さやけく松のこすゑふく風のをと心ほそくて。
いにしへの事かたり出てうちなきなとし給ふ。いと
よきおりかなと思ひて御せうそこやきこえつらん。
例のいとしのひておはしたり。月やうやう出て。あれ
たるまかきのほとうとましくうちなかめ給ふに。
きんそゝのかされてほのかにかきならし給ほと。
けしうはあらす。すこしけちかういまめきたるけを
つけはやとそみたれたる心には心もとなく思ひゐたる。
人めしなき所なれは心やすくいり給ふ。命婦を
よはせ給ふ。いましもおとろきかほにいとかた

はらいたきわさかな。しかしかこそおはしましたなれ。
つねにかう恨きこえ給ふを心にかなはぬよしを
のみいなひきこえ侍れは。みつからことわりもきこえ
しらせんとのたまひわたるなり。いかゝきこえかへさむ。
なみなみのたはやすき御ふるまひならねは心くるし
きを。ものこしにてきこえ給はんことはきこしめせ
といへは。いとはつかしと思ひて人にものきこえん
やうもしらぬをとておくさまへゐさり
いり給ふさまいとうひうひしけなり。うちわらひて
いとわかわかしうおはしますこそ心くるしけれ。
かきりなき人もおやのおはしてあつかひうしろみきこえ給ふ

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

そもそも心のうちにはいと…とて

をぞうしろやすう、さしすぎたる事は見えたてまつりたまはじと
おもひける。つねにせめられたてまつるつみさり
ごとに、心ぐるしき人の御ものおもひやいでこんなど
やすからずおもひゐたり。君は人の御ほどをおぼせば、
ざれくつがへるいまやうのよしばみよりは
こよなうおくゆかしうとおぼさるゝにいた
うそゝのかされて、ゐざりよりたまへるけはひしのびやかに、
えびのかいとなつかしうかほり出て、おほどかなるを
さればよとおぼす。年ごろおもひわたるさまなど、いと
よくのたまひつゞくれど、ましてちかき御いらへはたえて
なし。わりなのわざやと、うちなげきたまふ。

サレクツカヘル
たれ…後
…ヨリハト心

ホノクスミ…

えびのか　衣被香（エヒノカ）

いくそたびきみがしじまにまけぬらん
ものないひそといはぬたのみに
のたまひもすてゝよかし。たまだすきくるしとのたまふ。
女君の御めのとご、じゞうとて、はやりかなるわかうど、
いと心もとなう、かたはらいたしとおもひて、さしよりてきこゆ。
かねつきてとぢめんことはさすがにて
いらへまうきぞかつはあやなき
わかやぎたるこゑの、ことにおもりかならぬを、
人づてにはあらぬやうにきこえなせば、
ほどよりはあまえてときこゆれど、
めづらしきがなかなかくちふたがるわざかなと
いはぬをもいふにまさるとしりながら

アマリ末摘ノ無言ナルヲ云

ころもはハ下ニ…
そのわきいるを…
いたておもひそ…
いふよりまさりける

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』 請求記号 857-120
ガラス使用

いとめでたし 菅家萬葉千言萬語不知一點之義 別有幽愁暗恨生 此時無聲勝有聲 是ハ文源の獨言のやうに

こめたるはくるしかりけり。なにやかやとはかなき
ことなれど、をかしきさまにもまめやかにものたまへど、
なにのかひなし。いとかゝるもさまかへて思ふかたことに
ものし給ふ人にやとねたくて、やをらおし
あけて入給ひにけり。命婦あなうたて、たゆめ
給へるといとおしければ、しらずがほにてわがかたへ
いにけり。この若人どもはた、世にたぐひなき御
有様のおとぎゝに、つみゆるしきこえて、おどろ
おどろしうもなげかれず、たゞおもひもよらずにはか
にて、さる御心もなきをぞおもひける。さうじみは、
たゞわれにもあらず、はづかしくつゝましきより

又
ほかのことまたなければ、いまはかゝるぞあはれなるかし。
まだよなれぬ人のうちかしづかれたると、みゆ
るし給ふものから、こゝろえず、なまいとおしとおぼゆ
る御さまなり。なにごとにつけてかは御心のと
まらむ。うちうめかれて、夜ぶかう出給ひぬ。命婦は
いかならむとめさめてきゝふせりけれど、しりが
ほならじとて、御おくりにともこはづくらず。君も
やをらしのびて出給ひにけり。二条院におはして
うちふし給ひても、猶おもふにかなひがたき世
にこそとおぼしつゞけて、かろらかならぬ人の御
ほどを、心ぐるしとぞおぼしける。思ひみだれて

末摘　源氏　此句上ニモ有リ　末摘ノ族姓之

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

観普賢経曰普賢菩薩乗大白象鼻如紅蓮華色

ふとめぞとまる。普賢菩薩のゝりものと
おぼゆ。あさましうたかうのびらかに、さきのかた
すこしたりて色づきたること、ことのほかにうたて
あり。色はゆきはづかしくしろうてさをに、ひたひ
つきこよなうはれたるに、猶しもがちなるおも
やうは、おほかたおどろ〳〵しうながきなるべし。やせ
たまへること、いとおしげにさらぼひて、かたのほどなど
は、いたげなるまできぬのうへまでみゆ。なにゝ
のこりなうみあらはしつらんとおもふものから、めづら
しきさまのしたれば、さすがにうちみやられたまふ。
かしらつき、かみのかゝりはしも、うつくしげにめでたしと

俗ニ云ヲトゴゼノカモテノヤウナルヘ
ヤセタルハカノ痛ヤウニキヌノ上ニテ見ユル
小青之アヲ略スル之

袿 釈名婦人上服曰袿其下垂者上廣下狭如刀圭也

おもひきこゆる人〴〵にも、をさ〳〵おとるまじう、うちきの
すそにたまりてひかれたるほど、一尺ばかりあまりたらんと
みゆ。きたまへるものどもをさへいひたつるも、
ものいひさがなきやうなれど、むかし物がたりにも
人の御さうぞくをこそまづいひためれ。ゆるし
いろのわりなううはじらみたるひとかさね、なごり
なうくろきうちきかさねて、うはぎにはふるきのかはぎぬ、
いときよらにかうばしきをきたまへり。こだいの
ゆへづきたる御さうぞくなれど、なをわかやかなる
女の御よそひには、にげなうおどろ〳〵しきこと、いとも
てはやされたれど。

聴色ハフカキ色ヲ禁色トスルアサキヲユルシ色トイフ
フルキテントテン云歟
ヨバスキ

げにこのかはなうてはさむからましとみゆる
御かほざまなるを心ぐるしとみ給ふ
なにごともいはれ給はずわれさへ口とぢたる
心ちし給へど例のしゞまも心みんととかう
きこえ給ふにいたうはぢらひて口おほひ
し給へるさへひなびふるめかしうことことしう
儀式官のねりいづるひぢもちおぼえて
さすがにうちゑみ給へるけしきはしたなう
すゞろびたりいとをしくあはれにていとゞ
いそぎいで給ふたのもしき人なき御ありさまを
見そめたる人にはうとからず思ひむつび給はんこそ
ほいある心ちすべけれゆるされぬ御けしき

なればつらうなどことつけて
あさ日さすのきのたるひはとけながら
などかつらゝのむすぼゝるらん
との給へどたゞむゝとうちわらひて
いとくちおもげなるもいとをしければいで給ひぬ
御車よせたる中門のいといたうゆがみ
よろぼひて夜目にこそしるきながらもよろづ
かくろへたることおほかりけれいとあはれに
さびしくあれまどへるに松の雪のみあたゝかげに
ふりつめる山里の心ちしてものあはれなるを
かの人々のいひしむぐらのかどはかうやうなる
所なりけんかしげに心ぐるしくらうたげならん人を

儀式官
六条院
家ノ荒テタルヲ末摘ノ
河 貞松彰於歳寒
寒キトモ云リ
歳寒ニモ凋マザル松ノ性ノ
アタヽカナルナルベシ

ひとはまして　こゝ志のびてんや　わがかうて
なハ　おきみこの　うしろめたしとくへ　とき給
けん　こまりぬのしるべなりとぞおぼさる
こちぐれの　まのうげもれ　こゝ　ぐいぞん　見して
まくらはとこまふぐらや　ミがかは　松の　まのとのれ
おきかへりて　ぎとこぼるゝ　雪も　なるまゝ　ゆきす　忍乃
とこゝ　ゆるなどを　いとゝ　ぐ　大　なぐらかゝる　行
あひ　志しくれん　人もがれとこゝ　ふ　ゆ　ゐ　海いげべき

しどいまぐあけざりかれば　ぐぎのあげかりしぐね
出されば　おきれのいとゝいとじ　きぞ　出さるゝ　むを
めるやむまぐるや　いしゐるおほ　ほ　ゆ　女のこさぬ
ゆくさるあひて　すけまどひ　ぎむしとおもへる　乳
色かうて　あやしさ　袖よ　火をしぐほのうまいれて
袖ぐこゝまもしり　おきなかうどをえあけやらねば
りてひきしすくる　いとゝくなりぬ　ともの
人よりてぞ　何なつる
かりまけるうしられ　雪をみる人もとゝしず
ぬしれ　あきれ　袖かれ

子トモ孫トモ見エス中ナル務分之又ハシタモノハイト之ロハド
チコモウカヌト云
比ノ女ナルベシ

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

しもおぼしやりてたてまつり給ふ。かやうのまめやか
ごともはづかしげならぬを、心やすくさるかたの
うしろみにてはぐくまんとおもほしとりて、さま
ことにさならぬうちとけわざもし給ひけり。空
蝉のうちとけたりしよひのそばめは、いとわろ
かりしかたちざまなれど、もてなしにかく
されてくちをしうはあらざりきかし。をとる
べきほどの人なりやは。げにしなにもよらぬ
わざなりけり。心ばせのなだらかに、ねたげなりしを、
まけてやみにしかなと、もののをりごとにはおぼしいづ。
年もくれぬ。内のとのゐ所におはしますに、大輔の

命婦まゐれり。御けづりぐしなどには、けさうだつ
すぢなう心やすきものの、さすがにのたまひたはぶれ
などしてつかひならし給へれば、めしなきときも、
きこゆべきことあるをりは、まうのぼりけり。あやし
きことの侍るを、きこえさせざらんもひがひがしう思ひ
たまへわづらひてと、ほほゑみてきこえやらぬを、なに
ざまのことぞ。我にはつつむことあらじとのたまへば、
いかがは、みづからのうれへは、かしこくとも
まづこそは。これはいときこえさせにくくなんといひ
こめたれば、例のえんなるとにく
み給ふ。[illegible]より侍りけることとてさうらふ。

空蝉ハ権中納言ノ娘
源十七歳ノ冬也 箋
源十八歳の正月也
大輔命婦まゐれり
源ノ詞
令婦詞
末つむはな

[illegible]

源氏 [illegible]

まして　これはとりわくすべきことはとて　とり

おもふも　胸つぶるるに　檀紙奥州ヨリ漉ハシメタル故ニミチノク紙ト云テ上ニ紙ト云リ　厚肥ニ　ノタリ厚キ紙ハ人ノ肥太リタルニ似タルヲ　ありけるのくまがこれあり　いとツブイトエリフガキニ

白ひぐらしはつうちしぶんめうしたるかはら　艶艶ナラスシ　手跡モ哥モ艶ナラズシタルカナルト云ナレバ

とりて　哥も　[illegible]

花り　いつか我洞乃　つきんかう衣　えりこてろ乃　つゝきかきりハ　元亨集

末摘　[illegible]　衣ノきみが心のつれなく　[illegible]　源氏エスリ　知案命婦ガ

つのこゝろえず　源　袂ハカグヅトアルハ別ニ本様ニスベキ衣ノアルト　[illegible]

こゝろもとめて　末摘ヨリノ墨衣ニ入リタルキヌヲ取リ出タリ　河羨　墨衣　綾泥絵ニ平貝　延喜式

とり出て　衣箱　蒔絵　延喜式

とり出て　これをいかでかはいくべき　思ひ

まへごとに　されどつゝこちのれよそひとて　わざと

ぬめりをいしきるりはえうへしはらず　ひとりひとり　命婦ノ中ニテ取テオクベキニハ非ズト

こめ給らんも　人の心ぐるひ給べきれば　ぜ

さきてこそとてゆれば　河羨六帖　おハ雲ハ　なかそ白妙の　舳まきかさん　人もあるらは　六帖ニハ十三カ月ナリ　在り

[illegible]

うれしき心ざしまことにいとのまひてこゝろまものいとれしきまゝず　源　さてもおきましのこゝろつきやこれ

[illegible]

とりなくをすべかめれ　又　作書スル人ノ　その志りとりとりせず

なりなべきことにいふかひなくあばすこゝろをばしらして　[illegible]

[illegible]

うとしとこれをいかべからりとり　[illegible]

[illegible]

ニモアラズ又紅梅ニモアラヌハシタノ色ニニテ比出来タル色ナレバ今様色ト云リ大略ニ

えゆりすまじくつやなりうあるさしらなりをしのシ色ト

日ジキヘエルスマシジトハ紅ノコキ方ニヨリタレバ禁色ニ似ヨリタルニヨリテ云ヘ

紅梅ノコキシ　[illegible]　紅梅ノコキ

表 裏 日色ノ濃也 是モ旧俗也

うしうへひとしうこ海やかなる。ことなる俗くし

うつまぐぞしらるあさましとおぼせり。

よそふのこ尺つや　此ふことをひろげながらなり。そなたひすさひ

こけんくれなゐの　おんをぞばめまこれど

末つむ大なの　源　なりしき文ともなりしまなくこの末つむ

色にあすとも　くれなゐの色こき　それを袖にふれけんいろこさなりとこしかど

花と見しかとも　もなすどうきながしたまふ

人をあくにハ　うつるてふべ

右　人をあれす是ハ今一紙の

末つむ花の色に早なれ

あにそあ心もなのまれ寸人をあくにハうつるてふべ

のうめやまぢひつくんそで心もえんすいひし
ろみれ（今按ほりの誤）うそまりうそ
つぢひるうめぢでうそ
（原キイ有各本ヨリ衣ツラキト傍ヲ以井ニ改ム）
わのうめぢひるうぢつ
（ヲミヲモンナミトモンニ）（原ノ字形ニ拠ル）
あいぬ来をさへてつぐうもうやまう
ひるてつるれ（原ノ江新ニ拠ル）
（ナゲヤリ言給ヒシ）
ゆみつるうれわうそへのなま
（未摘ノ衣箱ヲトメ置テ只今キヌヲ入テツカハサレシ）
わうそへのなま
（昨日ノ事ノ意）
わうゆぢひぐうびぢ
（ニハアラ）
又やまぢうすまぢでうそ
（未ノ女房衣着タヨリ衣裳ヲワロキ カト思ヘトモ何カソレモ知ニアル
ろりし色あひとやうそ
ひろうれどうれうそ

うしやうそりもうれうもうれうのうそ
（未摘ノ方ノ年ヲ女房ナド是ヨリ人ハ衣ヲモ考ヘヌトルニシキト取判シタル）
（ケダレジノ事カ）
ひるれうもうれうもうれうのうそ
（浅江入給ヲ
ヲモ原ノ江新ニ拠ル）
（ヲ取ヲトリ給ヒシ事ノ誤カ）
なこそあれれうりうそ
（未ノ女房ノ事ヲ）
てどうりぐうよひめぢ
（未ノ女房ノ事ヲ）
ふいぞうそへるわざなれば
（原ナシ）
うりうもうのほぐすぢ
（男踏歌ノ事ヲ宵ニ天皇朝ニテモヨシテ女御ノ曹司ニ御幸アリシ事ヲ
毎年行レサル三ノコトヲ以テ此ノ女踏哥ヲ毎年正月ニ行ヒシ事ヲ
ひるれ衣のうそ
（原ナシ）
おさぐれどうびし
（原ナシ）
やうれいそありの日のもちゐてれいつ
ぢおんぢうまぞまひけるれとの井ぢそうる
やぐそうまうめやうそ
（原ナシ）

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120　　ガラス使用

857
120

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』 請求記号 857-120

ガラス使用